

競 技 注 意 事 項

1. 本競技会は2022年度日本陸上競技連盟規則に準じて行うが、小学生については「1回目のフライングで失格」の新規則は適用せず、旧ルール（一人が2回のフライングで失格）を適用する。なお、スタートの合図はイングリッシュコマンドとする。
2. アスリートビブスは胸と背に必ず規定のものを糸又は安全ピンで取り付ける。
3. 競技場への入場等について
 - 【競技者】※競技者の入場は7：15からとする。
競技場内への入場はすべて動物園側ゲートを使用する。朝の入場は所属団体ごとにコーチ及び引率者と一緒に入場する。その際、コーチ入場票・体調管理チェックシートを団体単位でまとめて提出する。これらの書類を忘れた場合は入場できない。その後の入場の際にはアスリートビブスを係員に見せること。競技終了後はテニスコート側ゲート又は動物園側ゲートから退場する。
 - 【引率者】
競技場への入場及び退場はすべて動物園側ゲートを使用する。入場の際には係員に観戦者入場票の提出を義務付ける。（混雑を避けるために用紙を事前にHPからダウンロードし、記入しておくことをお勧めします）観戦者入場票を提出した際には、再入場時に必要な物品を係員から受け取ること。
 - 【共通】
トイレはスタンド両端に設置されている場所を使用する。メインスタンド内のトイレは使用できない。また、正面入り口から場内に入場することはできない。（緊急時を除く）
 - 【記録等】
記録掲示板を用いての記録等の表示は行わない。放送では3位までの記録等を発表する。それ以外はアスリートランキングで確認する。
4. 選手の招集について
 - 招集完了時刻までに競技者係（トラックはスタート地点、フィールドは競技場所）で自分の名前と所属名を知らせ、アスリートビブスを見せる。トラック競技に出場する選手は、右腰や後ろ側に腰ナンバーカードを付ける。
 - 招集開始時間と完了時間、競技開始時刻はプログラムに書いてあるので、よく見て遅れないようにすること。点呼に遅れると失格となるので注意すること。招集が終わったら審判員の指示に従うこと。種目が重なっている場合、トラック種目が優先されるので、そのことを審判員に申し出て指示に従う。
5. プログラムに記載間違いがあったら本部に早めに申し出ること。
6. レーン、試技順はプログラムの番号順とする。
7. リレーについてはすべて、決められたレーンを走る。（バトンの受け渡しは30mのテイクオーバーゾーン内で行う。）オーダーは競技開始時刻の1時間前までに競技者係まで申し出て、オーダー用紙に走る順を記入する。バトンを渡しても他の選手のじゃまにならないようにするため、係の指示があるまで、自分のレーンから出ないこと。
8. ハードルは、スタートから第1ハードルまで13m、インターバル7m、高さ70cm、台数9台、最終ハードルからゴールまで11mとする。
9. スパイクシューズ、スタートの仕方、リレーのテイクオーバーゾーンについては要項に記載のとおり。

10. フィールド競技（走高跳、棒高跳、走幅跳、砲丸投、ジャベリックボール投）

- (1) 走高跳のバーの上げ方は次の通りとする。（天候によって変更することもある）

【小学男女走高跳】

練習 1 m05 試技 1 m10から 5 cm上げ、1 m30以上は 3 cm上げとする。

背面跳ではなく、はさみ跳でマットへの着地は必ず足裏からとし、背・腹などからの着地は無効とする。

- (2) 走幅跳、砲丸投、ジャベリックボール投の試技は、それぞれ 3 回ずつとする。

11. 競技に使う器具は、すべて競技場備え付けのものを使用する。

12. その他

- (1) 選手は本部前席前を通らないこと。
(2) トラックを横断する時は、事故のないよう、十分気を付けること。
(3) 主催者は応急処置のみ行う。
(4) 主催者側で消毒用アルコールを用意するが、参加者自身も持参することを推奨する。
(5) ゴミ類はすべて持ち帰ること。
(6) 駐車場は動物園駐車場を使用する。本競技場前の駐車場は競技役員のみとする。

※出場時には《【大会前/提出用】体調管理チェックシート》の提出が義務付けられる。事前に札幌陸協のHPから印刷し、当日朝の受付に団体単位で提出する。なお、未提出の場合は出場できない。

※感染症対策のため、選手、競技役員、引率者等、来場者全員がマスクを着用する。観客席においては十分な間隔を取って着席すること。大きな声を出しての応援はできない。また、運動時以外はマスクを着用すること。